

台湾のトンネル工事における吉次茂七郎（大正3年卒）の知られざる業績

名古屋工業大学 後藤芳顯 C48

日本統治時代の台湾で、大正期から昭和初期にかけて農業水利事業に大きな貢献をした土木技術者として八田 與一（1886年－1942年）は有名である。その生涯と業績は、数多くの文献のみならず最近では長編アニメ映画「パッテンライ!!～南の島の水ものがたり～」(虫プロ 2008年)でも紹介されている。

ほぼ同じ時代に、名古屋工業大学の前身である名古屋高等工業の卒業生にも、台湾での長大隧道（トンネル）工事に命をかけた土木技術者がいることを知った。きっかけは戦前の台湾における日本人の功績を調べておられる名古屋大学医学部のS先生からの旧草嶺隧道わきの故吉次茂七郎之碑(写真1)についての問い合わせであった。「碑文によると吉次茂七郎は名古屋高等工業出身らしいが碑文の損傷が目立ち判読が難しいので、その経歴を教えて欲しい。」というものであった。早々に卒業生名簿を調べたところ確かに大正3(1914)年の卒業であることが判明した。しかしながら、あまりにも昔のことで大学には資料がなく、インターネット検索を試みた。その結果、台湾では吉次に関する多くのサイトが見つかったが、国内のサイトにおける情報は皆無であった。残存している碑文(図1)と台湾のサイトに掲載されている中国語の情報の断片をつなぎ合わせて得られた吉次の経歴は以下のようである。

吉次茂七郎

- ・ 福岡県出身
- ・ 名古屋高等工業学校 1914（大正3）年3月卒業
- ・ 台湾総督府鉄道部奉職
- ・ 陸軍に志願し砲兵少尉
- ・ 除隊後命令により復職
- ・ 台湾総督府による宜蘭鉄道工事監督者への抜擢
- ・ 三貂嶺隧道と草嶺隧道工事に従事
- ・ マラリアのため工事途中で 1923（大正12）年1月17日逝去

険しい地形の草嶺隧道は当時台湾最長（2,166m）で大変な難工事であったようであるが、30歳台前半の吉次が選ばれて工事監督者になったことは彼の卓越した能力を示すものと思われる。記念碑は草嶺隧道完成の1924（大正13）年10月9日に台湾総督府が建立し、その後、日本の統治下では毎年慰霊祭が行われていたと伝えられている。戦後、台湾における日本人に関わるこの種の記念碑や顕彰碑の類はほとんど破壊や撤去がなされたが、吉次の碑は地元住民の強い反対で残されたようである。しかしながら今から20年以上前に宜蘭鉄道の複線化で新しい草嶺隧道が建設され、旧草嶺隧道は廃道になり訪れる人も減り、記念碑の存在や吉次の業績も忘れられていったのではないかと考える。



写真1 整備された記念碑（2009年）

吉次君ハ福岡縣ノ人名古屋高等工業學校ニ學ビ業ヲ立フルヤ臺灣總督府鐵道部ニ職ヲ奉
 シ×何モナク一年志願兵トシテ軍籍ニ身ヲ投シ陸軍砲兵少尉ニ任×ラル除隊援直ニ復職ヲ
 命ヤラレ宜蘭鐵道工事×起×ウラ×ルヤ選ハレテ工事現場監督者ト×リ拮据精勵ス三貂嶺
 及ビ草嶺ノ×隧道ノ成レルハ實ニ君カ努力ヲ賜×リ然ルニ×途 黒水熱ニ犯サレ病ムコト隆か
 四×××テ大正十二年××××日溘焉此ノ地ニ逝ク行年××有四×悲哉茲ニ工事×××相謀リ記
 念碑ヲ設ケ以テ××ニ君××靈ヲ……

大正十三年十月九日，草嶺隧道完工ノ日

図1 裏面の碑文（×は損傷して判読不能，
 2006年に碑文は中国語にも翻訳されている。）
 (<http://barefooter.pixnet.net/blog/post/6402213>)

20年あまりの長い間封鎖されていたこの旧草嶺隧道（写真2）が再び脚光を浴びたのは東北角および宜蘭風景區管理處により整備され，台湾で最長の「自転車觀光トンネル（サイクリングロード）（写真3）」として2008年8月10日に蘇ったことによる。この事業で記念碑ならびにその周辺も整備されたことで，台湾の人たちが旧草嶺隧道に多く訪れるようになり再び吉次の功績が一

般にも認知され、また興味を持たれるようになっていく。日本からの観光客のブログでもこの碑のことは触れられている。

吉次茂七郎は当時では非常に難しい長大隧道の工事を指揮し、また地元住民にも業績が評価されているという点では、日台関係において八田 與一と遜色のない業績をあげていると考えたい。残念ながら、隧道という地味な構造物で、しかも最近まで20年あまりの間廃道となっていたこと、30歳台前半での逝去、さらに敗戦の混乱で業績や人となりについて我が国においてはほとんど知られていない。今回この一文を寄稿させて頂いたのは卒業生の皆様の中に、もしかして何らかの手がかりをお持ちの方がおられるのではないかと期待を持ったからである。どのような情報でもお寄せ頂ければと思う。いままでに得た情報は少なく、また、個々の情報の検証も十分ではないが、今後、十分な資料を集め、検証できれば、我が国では忘れ去られた偉大な先輩の業績を世の中に伝えたいと考えている。是非ともご協力をお願いしたい。

なお、今回の件でCE会名簿を調べていて驚いたことに、吉次茂七郎の隣に同期卒業生として、著名な橋梁技術者である山本卯太郎の名前があることに気づいた。近い専門分野でありながら、うかつではあるが彼が名古屋高等工業の卒業生であることを全く把握していなかった。卒業生の中にはご存知の方も多と思うが、山本卯太郎は可動橋である跳上橋の先駆者で、我が国でのその発展に大きく寄与した。代表的な作品は隅田川駅跳上橋（1926年完成、日本初の可動橋）、名古屋港跳上橋（1927年完成、現存する日本最古の跳上橋、登録有形文化財）、末広橋梁（1939年完成、可動橋として初の重要文化財）など多数ある。あらためて、名工大の長い歴史と偉大な諸先輩の存在に感銘を受けた次第である。

連絡先: 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学専攻 後藤芳顯



写真2 封鎖され荒廃した旧草嶺隧道北入口（2004年）

<http://www.tonyhuang39.com/tony0166.html>



写真3 サイクリングトンネルとして蘇った
旧草嶺隧道北入口(2008年)

<http://lfat.pixnet.net/blog/post/17582384>